

# 義足全速 私を見て



5~6月の写真。テーマは「世界選手権に行けなかった時に、大雨の中でもがむしゃらに練習した様子」

## パラリンピックを目指す陸上選手

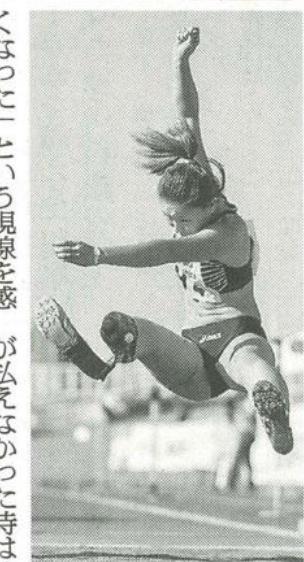
今夏のロンドン・パラリンピック出場をめざす陸上女子のトップ選手が先月、セミスードカレンダーを発売した。背景には資金難があるが、背中を押したのは「絶対にロンドンまでやる」という覚悟だった。

中西麻耶さん(26)は2006年、ソフトテニスで国体出場を目指す、大分県の21歳の会社員だった。勤め先は「練習と両立できる」

という条件で入った鉄骨塗装の会社。その現場で、倒れてきた鉄骨に足を挟まれ、右足ひざ下を切断した。

周囲からの「何ができるな

くなつた」という視線を感じることが多く、悔しかつた。義足をつけ、翌07年に走り始めた。08年には北京パラリンピックに出場。100㍍で6位、200㍍は4位に入賞した。



競技中の中西さん=いづれも越智貴雄氏撮影

## 肉体美カレンダー 資金募る

それでも世界との差を痛感した。「現役でいられる時間は限られている。悔いだけは残したくない」。09年に渡米し、米国の国立トレーニングセンターの審査に通った。記録は伸び、パラリンピック種目の100㍍、200㍍、幅跳びで日本記録を更新した。

ところが、資金難に苦しめられた。最低2足は必要な競技用の義足は、1足約120万円する。米国の就労ビザがないため働けない。ホームステイする費用

が払えなかつた時は、車で寝泊まりした。

資金を作るため、カレンダーを作つた。障害部位を出すと「障害者をさらし者にしている」と言う人もいる。でも、「本気で支援してもらつたため、自分のすべてを賭けてインパクトのあることをしよう」との思いが強かつた。

「障害者のスポーツはレベルが低い」と思う人がいるとすれば、悔しい。ロンドンでは3種目での出場をめざす。出るだけでなく、世界記録の更新を狙う。

カレンダーは3月から14カ月分で1200円。2千部限定で中西さんのホームページやブログ(ameblo.jp/n-maya/)かの購入である。(山本奈栄香)